

世界最大級の洞窟を探し、ラオスの未踏洞窟を探検

吉田さんは、2018年にラオス現地の情報を得て、世界最大級の可能性がある未踏洞窟の洞口を確認。19年に第1回目、現地での許可取得やコロナ禍を経て、22年と24年に探検を実施しました。3度目の探検では、過酷な環境下での体調不良に見舞われながらも、下流部の未踏部分をケイブダイビング*や人工登攀によって突破し、新たに約550mの未踏箇所を発見しました。
 ※ケイブダイビング…洞窟の中へ入っていくダイビング。太陽光が直接入らない範囲まで潜る



洞窟探検には、全てが詰まっている

洞窟探検は、人知れず名もなき山や僻地に行っ
 て穴に入るといった活動の繰り返しです。入口を見
 つけなければ探検は始まり、すごい成果が必ず
 出るものでもありません。「世界最大、世界最深」
 という記録的な洞窟を発見できる可能性、社会的
 な意義、評価が低いこともあります。

また、ドキドキやワクワク、感動して楽しいこ
 とばかりではなく「痛い」「寒い」「苦しい」など、こ
 の世の苦のほとんどが洞窟の中にあると吉田さん
 は考えています。そうしたことから洞窟探検は、
 登山・クライミング・キャニオニング・ダイビン
 グなどさまざまな技術が必要とされる難易度の高
 い探検と言えます。



◀60mの滝を降下

洞窟の魅力に取り憑かれて30年以上探検を続ける

吉田さんは、何度も命の危険にさらされなが
 らも、未知・未踏の世界を解明する魅力に取り憑かれ、
 30年以上洞窟探検を続けています。

現在は少しでも多くの人に洞窟の魅力を知っ
 てもらうことに貢献できればと、探検の映像や写真
 など洞窟の魅力をSNS等を通して発信していきた
 いと考えています。



▲未知の巨大な空間を発見

※写真はすべて吉田勝次さん提供

吉田勝次さんプロフィール

58歳。1966年大阪府生まれ。98年冬に突然山に登りたくなり、冬山雪上訓練と登攀の指導を受け
 るが、次第に既に踏破されてルートもほぼ定められた登山に物足りなさを感じるようになる。

98年に洞窟探索記事に目を奪われ、洞窟探検に参加。以降、洞窟探検に傾倒していく。

「知られている洞窟でも感動するのに、自分で発見した洞窟ならどれだけ感動するだろうか。」そ
 の思いから、国内・国外、縦穴・横穴・水中問わず、未踏の洞窟を求めて1年の3分の1を洞窟探
 検と準備に費やす。これまでに世界30カ国1,000カ所以上の洞窟に潜っている。

2024「植村直己冒険賞」

受賞者が決定



人類未踏の洞窟探検

よしだ
吉田 かつじ
勝次さん



2月12日(水)、2024「植村直己冒険賞」受賞者の記者発表を東京会場(明治大学グローバルホール)と豊岡会場(府中小学校)で開催しました。

今回は、2024年に日本人が挑んだ113件の冒険の中からラオスにある「人類未踏の洞窟探検」を行った、吉田勝次さんが選ばれました。洞窟探検で植村直己冒険賞を受賞したのは、今回が初めてです。

本賞の授賞式は、6月7日(土)に日高文化体育館(日高町祢布)で開催します。冒険賞の授与のほか、吉田さんの講演も行われますので、皆さん楽しみにお待ちください。

《問合せ》日高振興局地域振興課 ☎21-9056

吉田勝次さん喜びの声

憧れの賞を受賞できて、とてもうれしい

植村直己さんは、私にとって登山を始めるきっかけの1つとなった方で、DVDなどを購入して観ていました。しかし、私は登山で頂上へ行くだけでは満たされませんでした。初めて洞窟探検をしたときに、一生やり続けたいと感じてしまった。そこからあっという間に31年が経ってしまいました。

「植村直己冒険賞」という賞は知っていました。夢は世界で一番大きい洞窟、深い洞窟を見つけたい。でもまだ見つけられていない。そんな私が、今回選ばれて驚きましたが、憧れの賞なのでとてもうれしいです。



▲これから冒険に向かう吉田さん

—子どもたちへのメッセージ—

探検や挑戦は、好奇心と恐怖心がアクセルとブレーキになります。時には、次に挑戦するために戻ることも必要です。6月に皆さんに会えることを楽しみにしています。洞窟のことなら何でも答えます。(2月12日、受賞者発表記者会見にて)